

新刊図書の紹介

身近な川について考えよう



監修 建設省荒川下流工事事務所
編集 (財)リバーフロント整備センター
体裁 全編A4判
定価 税込み送料別途

「不老川流域編」：307頁(16)1,900円
「砂川堀流域編」：224頁(16)1,750円
「柳瀬川流域編」：290頁(16)1,900円
「黒目川流域編」：226頁(16)1,800円
「白子川流域編」：250頁(16)1,900円
()内はカラー頁数

本書は、新河岸川流域を支川毎に5つのブロックに分けて、平成7年度に各ブロックで住民の方を主体として組織・開催された「川づくり懇談会」において用いた資料をとりまとめたものです。

河川審議会答申「今後の河川環境のあり方について」(平成7年3月)の考え方にもとづいて、各ブロックの河川について総合的な検討ができるように、河川と地域を流域全体で捉えながら、歴史的、文化的、さらには治水、利水、親水といった河川特有の機能をも含めた様々な観点からまとめています。

5つのブロックに対応し「不老川流域編」、「砂川堀流域編」、「柳瀬川流域編」、「黒目川流域編」、「白子川流域編」の全5編となっています。

本書は、望ましい河川像・流域像を示したものではなく、各流域の今後の川づくり・まちづくりを考える上で参考にしていただく資料です。

本書は書店では取り扱っていませんので、ご購入は直接当センターへお願いします。

販売担当：(財)リバーフロント整備センター
研究第3部 堀内
TEL 03-3265-7121
FAX 03-3265-7456

「多自然型川づくり 施工と現場の工夫」



多自然型川づくりは、調査、計画、設計、施工という手順を経て、さらに追跡調査、維持管理、補修・手直しという流れで進められます。河川が多様な自然環境を保全・復元し、自然豊かな川づくりを目指す多自然型川づくりにとっては、この流れのいずれの段階も重要な意味を持っていますが、これまでは調査や計画・設計段階における取り組みが重視され、工事発注や施工といったより現場に近いところでの配慮が欠けている場合もありました。

多自然型川づくりの施工現場からは様々な配慮や工夫を凝らした好事例が報告される一方で、配慮不足、工夫不足等が指摘できる事例も見受けられます。計画・設計の趣旨が現場に適切に伝わらずに誤解が生じていたり、ほんの少しの配慮や工夫が足りなかったために意図した川づくりが実現できなかった事例もあります。また、現場の状況変化があった場合に柔軟な対応が図られていなかったり、周辺環境に対する配慮が不足している場合もあります。

このようなことから本書では基本的な考え方を述べた後、川づくりの事業の流れに沿いながら、まず施工段階以前に配慮・工夫することが望ましい事項として、計画・設計の趣旨を現場までの確に伝える手段と留意点を整理するとともに、材料選定段階や施工計画策定段階、発注段階における配慮・工夫事項についても整理しました。次に、実際の施工段階における心構えについて記述するとともに具体的な配慮・工夫事項を整理し、編集・掲載しました。

本書は多自然型川づくりの施工マニュアルでも、画一的な手法を提示するものでもなく、現場における施工をより良いものとするための様々なヒントや参考情報を提供することを意図しています。このため、本書に記載されている配慮・工夫事項の全てを実行しようとするのではなく、現場の状況にあわせ可能なものから取り入れて頂ければ幸いです。

編集発行：(財)リバーフロント整備センター
体裁：A4版、91頁(全頁カラー)
定価：1,200円(税込み、送料別途)

ご購入希望の方は、FAXにて下記の担当までお申し込みください。

担当：(財)リバーフロント整備センター 研究第二部
沼田

TEL:03(3265)7121 FAX:03(3265)7456

【本書の構成】

1. 基本的な考え方
2. 設計段階の配慮・工夫
3. 発注段階の配慮・工夫
4. 施工段階の配慮・工夫